

『民法概論 1 民法総則』

(S.N.・30 代・公務員)

本書に関心をもった理由は、学生時代に学んでいた法律をもう一度勉強してみたいと考えたからです。その当時にも山野目先生の本を読んでいた記憶があるので、新刊を読みたいと思いました。

民法の学び直しのための教材として使用しました。民法総則は、民事法の一般法である民法の中でも根幹となる部分であるため、条件と期限、代理など、基本に立ち返って読み進めました。

分量については、一見多い印象を受けましたが、読み進めてみると設問に関する事項について他の法律の説明、考察された文献等まで引用してあったため、読み終わってみると納得できる分量でした。

体裁について、文字の大きさについてはちょうど良いと感じました。レイアウトについては、各事項について、関連事項についての詳細な説明があることがよかったです。条文解釈だけでなく、その背景まで知ることができる記述であったので、時間に余裕ができれば参考文献も読みたいと考えています。他方、この豊富な記述のために、課題(設例)と考察とが離れすぎていると感じる部分があり、解説を読んでいるうちに課題を忘れてしまうことがあったので、この点について改善いただけると幸いです。

『法学教室』2018 年 4 月号 (No.451) 掲載 「Reader's Voice」より